

国立大学法人高知大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

高知大学は、人と環境が調和のとれた共生関係を保ちながら持続可能な社会の構築を志向する「環境・人類共生」の精神に立脚し、地域を基盤とした総合大学として教育研究活動を展開することを使命としている。第2期中期目標期間においては、幅広い教養と高度で実践的な専門能力を身に付け、地域社会や国際社会の健全な発展に貢献できる人材の育成等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、時代を先駆ける「土佐さきがけプログラム」を開設しているほか、「四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業」を開始するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「教育組織改革マスタープラン」をとりまとめ、地域協働学部（仮称）の新設、理学部と農学部の再編と機を合わせた海洋と防災に関する教育の重点化、教育学部や医学部の専門職業人の育成機能の強化、人文学部のグローバル人材育成と地域貢献の一体化に焦点を当てた改組を行うことを決定するとともに、全ての学部が年次計画を立てて改革を着実に進めていくこととしている。

【評定】 中期計画の達成に向けて**順調**に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 四国地区の5国立大学による共同調達を実施し、重油及びトイレットペーパーで単独で調達した場合と比べて312万円を削減するとともに、資金の共同運用を開始している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 広報活動実施計画に基づき、大学の存在意義を幅広く明確に広報するため、「地域」、「黒潮」などをコンセプトとして広報活動を展開するとともに、動画共有サービスを活用した配信やウェブサイトからも視聴可能なインターネットラジオ番組を開設するなどの取組を実施している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 非常勤講師宿泊施設を改修した「学生ラウンジほっとステーション」では、学生相談等を行うキャンパスサロン(10回)等が実施され、新たな学生交流の場として高い頻度で利用されている。
- 中国・四国地区10大学における大規模災害発生時の連携した支援方策について中心となって検討し、「中国・四国地区国立大学間連携による高等教育業務継続計画書」の内容の合意を得ている。

平成24年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 医学部において個人情報を含む調査データが記録されていた USB メモリーを紛失する事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 23 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 時代の一步先を進む人材の育成を目指す「土佐さきがけプログラム」において、グリーンサイエンス人材育成コース、国際人材育成コース、スポーツ人材育成コースの 3 コースを開講するとともに、教育効果を高めるために留学や学会参加等に対して支援を行う奨学事業制度を整備している。
- メンタルヘルス支援のため、保健管理センターに臨床心理士を配置するとともに、障害の理解及び支援に関する教職員研修を実施するなど、保健管理体制の強化を図っている。
- 掘削コア科学による地球環境システム変動研究拠点において、無人探査機に搭載したセンサーにより新たな熱水噴出地帯を発見するなど、分野横断的かつ重点的に取り組んでいるプロジェクトの研究が進んでいる。
- 四国地区における教育、研究、地域連携の質的向上を図る「四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業」を開始しており、「大学連携 e-learning 教育支援センター四国」及び「四国産学官連携イノベーション共同推進機構」を平成 25 年度に設置することを決定している。
- 共同研究の成果に係る特許出願及び譲渡指針に基づき、特許の質的充実の観点を重視して帰属決定を行い、企業での実施（事業化）が見込まれる有望な共同出願件数が 23 件（対前年度比 10 件増）となっている。
- 土佐フードビジネスクリエーター（FBC）の事業期間（平成 20 ～ 24 年度）の目標 80 名を上回る 150 名の修了生を輩出するとともに、この取組が評価され高知県からの寄附講座等により土佐 FBC II を平成 25 年度以降実施することを決定している。
- 日本及びインドネシアの 6 大学（愛媛大学、香川大学、高知大学、ガジャマダ大学、ボゴール農業大学及びハサヌディン大学）で構成するコンソーシアムによる学生フォーラム及び熱帯農業体験プログラムに参加させるため 12 名をインドネシアへ派遣するとともに、共同学位プログラムにも 1 名を同国へ派遣している。
- 附属学校園において、防災・安全教育を共同テーマに、幼小中合同防災学習会や避

難訓練の実施、防災マニュアルの確認や防災備品の整備を進めている。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 平成 24 年 3 月に完成した「レジデントハウス南風」内のスキルスラボにシミュレーター等の教育機器を移設したことで、研修医や学生の利用環境が向上し、各種研修や実習を含めた利用者数が、対前年度比約 1,000 名増加している。

(診療面)

- 高知県の広域医療搬送拠点となっている医学部キャンパスにおいて、平成 24 年 9 月に政府主催総合防災訓練（広域医療搬送訓練）及び広域医療搬送訓練にリンクさせた附属病院でのトリアージ訓練や、手術中の停電を想定した非常電源使用下での手術シミュレート等を実施し、防災関係機関相互の協力の円滑化を図っている。

(運営面)

- 県内医師のキャリア形成支援や適正配置のため、医学部生及び県内初期臨床研修医を対象にキャリアパスや地域医療等に関する調査を行うとともに、医学部生、若手医師のためのコミュニティサイトを公開したり、関連病院との協力体制の構築及び協定案を作成するなどの取組を進めている。
- 附属病院における財務運営費について、財務諸表上の附属病院セグメント（損益ベース）と事業報告書上の収支の状況（キャッシュベース）、それぞれの観点から、債務償還を含めた経営の実態、翌期以降将来に向けた人的投資、設備投資ができる予算があるのかなど、運営上の課題について今後十分な説明責任を果たすさらなる努力が求められる。